

6章

UNIX環境での設定/印刷

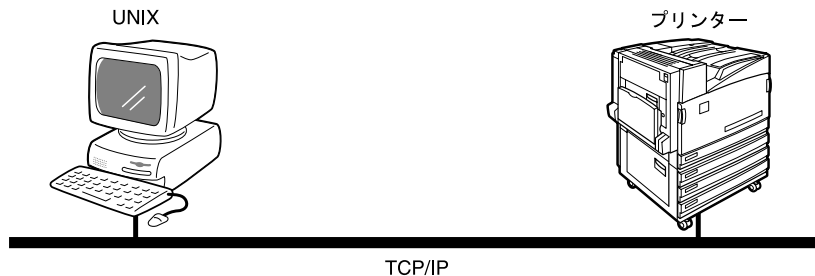
6.1	概要	94
6.1.1	システム構成について	94
6.1.2	対象クライアント	94
6.1.3	インターフェイス	94
6.2	プリンター側の設定	95
6.2.1	設定の流れ	95
6.3	ワークステーション側の設定	96
6.3.1	設定を始める前に	96
6.3.2	プリント言語/モード/出力形態について	96
6.3.3	ワークステーション設定例(SunOSの場合)	100
6.3.4	ワークステーション設定例(Solarisの場合)	101
6.3.5	ワークステーション設定例(HP-UXの場合)	102
6.4	印刷操作	103
6.4.1	印刷する(SunOSの場合)	103
6.4.2	印刷を取り消す(SunOSの場合)	104
6.4.3	印刷する(HP-UX、Solarisの場合)	106
6.4.4	印刷を取り消す(HP-UX、Solarisの場合)	107
6.5	lprコマンドの-Cオプションについて	109
6.5.1	パラメーターについて	109
6.6	プリンターステータスの確認	112
6.6.1	プリンターステータスを確認する(SunOSの場合)	112
6.6.2	プリンターステータスを確認する (HP-UX、Solarisの場合)	113

6.1 概要

本機をUNIXのネットワーク環境で使用するためのシステム構成、対象クライアント、インターフェイスについて説明します。

6.1.1 システム構成について

本機は、トランスポートプロトコルとしてTCP/IPをサポートする、lpd(Line Printer Daemon Protocol)が使用できます。
lpdを利用して、本機をUNIXのネットワーク環境で使します。



6.1.2 対象クライアント

本機のlpdが対象とするクライアントは、次のとおりです。

- SunOS 4.1.4を実装するSunワークステーション
- HP-UX11.0を実装するHP9000シリーズワークステーション
- Solaris 2.Xを実装するSunワークステーション

6.1.3 インターフェイス

本機のlpdは、次のインターフェイスで使用できます。

- Ethernet 100Base-TX
- Ethernet 10Base-T

適応するフレームタイプは、Ethernet に準拠しています。

6.2 プリンター側の設定

本機をUNIXのネットワーク環境で使用するには、操作パネルで次の設定をする必要があります。

- IPアドレスを設定する (IPアドレスが設定されていない場合)
- lpdポートを【キドウ】 (工場出荷時：起動)にする

参照

設定は、「CentreWare Internet Services」でもできます。詳細については、『DocuPrint C2220取扱説明書』の「5.1 クライアントからプリンターの設定をする(CentreWare Internet Services)」を参照してください。

6.2.1 設定の流れ

操作手順

- ① IPアドレスを設定します。

参照

- 「1.4 IPアドレスを設定する」(P.9)を参照してください。
- 使用環境に応じて、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。必要に応じて設定を行ってください。『DocuPrint C2220取扱説明書』の「8.2 共通メニューの設定を変更する」を参照してください。

- ② lpdポートを【キドウ】(工場出荷時：起動)に設定します。

参照

「1.5.1 lpdポートを起動する」(P.14)を参照してください。

- ③ 使用環境に応じて、「プリントモード指定」(初期値：自動)、「JCL」(初期値：有効)、「lpdスプール」を設定してください。

参照

『DocuPrint C2220取扱説明書』の「8.2 共通メニューの設定を変更する」を参照してください。

6.3 ワークステーション側の設定

ワークステーション側での設定方法について説明します。

6.3.1 設定を始める前に

ワークステーションで設定を始める前に、次の点を確認してください。

- OSのバージョンによっては、設定方法やコマンドの絶対パスが異なる場合があります。詳細は、各ワークステーションのマニュアルを参照してください。
- 設定するためには、スーパーユーザーになる必要があります。スーパーユーザーの権限を持っていない場合は、ネットワーク管理者などに設定を依頼してください。
- あらかじめ、本機に設定されているIPアドレスを調べておいてください。IPアドレスを間違えると、重大な障害が発生する可能性があります。十分注意してください。
- NIS(Network Information Service)の管理下で使用されているワークステーションで、ネットワーク(IPアドレスなど)を設定する場合は、NISの管理者に相談してください。

6.3.2 プリント言語/モード/出力形態について

●●● プリント言語/モード

論理プリンターを設定するときのプリンター名は、印刷時に使用されるプリント言語/モードに対応しています。設定できるプリンター名とプリント言語/モードの関係は、次のとおりです。

プリンター名	プリント言語/モード
ESCP* / ESC*	ESC/P言語 *
HPGL* / HPG*	HP-GL * HP-GL/2 * HR-RTL *
PS*	PostScript®(ポストスクリプト)言語 *
PSASC* / PSA*	PostScript®(ポストスクリプト)言語 *
PSBIN* / PSB*	PostScript®(ポストスクリプト)言語 *
ART*	ART 言語 *
PLW	ART EX言語
lp	操作パネルで設定されている言語
DUMP / DMP	ダンプモード
PLT%nH*	HP-GL * (%nには、HP-GLエミュレーションモードの設定において、登録されたメモリー番号(1~20)を入力します。)
AUTO / ATO	自動判別モード

*はオプションです。

補足

- プリンター名は、小文字でも使用できます。
- PostScript®言語は、オプションのPostScript®ソフトウェアキットが装着されている場合に指定できます。
- ESC/PとHPGL/2とART は、ART /エミュレーションキットが装着される場合に指定できます。
- 印刷時に、表にないプリンター名を指定した場合は、操作パネルで設定されているプリント言語/モードが使用されます。
- 同一のワークステーション上から、1台のプリンターに対して設定するプリント言語/モードは、1種類をお勧めします。2種類以上のプリント言語/モードを設定した場合は、問い合わせ (lpq)によって、ワークステーションに同一のジョブ番号が表示される場合があります。
- ASCII形式のPostScript®ファイルを印刷する場合は、「PSASC」を指定してください。TBCPフィルターを有効にして、データを処理します。
- バイナリー形式のPostScript®ファイルを印刷する場合は、「PSBIN」を指定してください。TBCPフィルターを無効にして、データを処理します。

●●● 出力形態

プリンター名に出力形態のパラメーターを追加し、出力形態を設定できます。設定できる出力形態のパラメーターは、次のとおりです。

注記

以下に記載されていないパラメーターを指定した場合、そのパラメーターは無視されます。

給紙トレイ選択

給紙トレイの選択には、用紙サイズを指定する場合と、用紙トレイを指定する場合があります。用紙サイズを指定した場合は、指定した用紙がセットされた用紙トレイを自動的に検索します。

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

“ INTRAY1 ”または“ intray1 ”	トレイ1を選択します。
“ INTRAY2 ”または“ intray2 ”	トレイ2(オプション)を選択します。
“ INTRAY3 ”または“ intray3 ”	トレイ3(オプション)または大容量トレイ(オプション)を選択します。
“ INTRAY4 ”または“ intray4 ”	トレイ4(オプション)または大容量トレイ(オプション)を選択します。
“ INTRAY5 ”または“ intray5 ”	トレイ5(手差し)を選択します。
“ INMF ”または“ inmf ”	トレイ5(手差し)を選択します。
“ A3 ”または“ a3 ”	A3用紙がセットされたトレイを選択します。
“ B4 ”または“ b4 ”	B4用紙がセットされたトレイを選択します。
“ A4 ”または“ a4 ”	A4用紙がセットされたトレイを選択します。
“ B5 ”または“ b5 ”	B5用紙がセットされたトレイを選択します。
“ A5 ”または“ a5 ”	A5用紙がセットされたトレイを選択します。
“ LETTER ”または“ letter ”	レターサイズ(8.5×11インチ)を選択します。
“ LEGAL ”または“ legal ”	リーガルサイズ(8.5×14インチ)を選択します。

給紙トレイを指定するときは、次の点に注意してください。

- 1回のlprコマンドで同時に複数のパラメーターを指定すると、正しく印刷されない場合があります。
- 用紙トレイ番号を指定しない場合、指定した用紙トレイが装着されていない場合、あるいは指定した用紙サイズがセットされていない場合は、システム初期値が使用されます。
- 本オプションは、用紙だけを指定するオプションです。用紙は選択されますが、原稿サイズは用紙に合わせて修正されません。
- 印刷データ中に、給紙トレイを選択するデータが含まれている場合、印刷データ中の用紙トレイ選択が有効になり、-Cオプションによる指定は無効になります。
- 組み合わせできない指定をすると、プリンターが正しく動作しない場合があります。
- プリント言語によっては、指定が無効になることがあります。

用紙種類選択

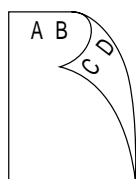
指定できるパラメーターは、次のとおりです。

- “ PTS ”または“ pts ” 普通紙を選択します。
- “ PT1 ”または“ pt1 ” 厚紙1を選択します。
- “ PT2 ”または“ pt2 ” 厚紙2を選択します。
- “ POH ”または“ poh ” OHPフィルムを選択します。

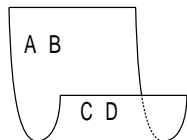
両面印刷

指定可能なパラメーターは、次のとおりです。

- “ DUP ”または“ dup ” 以下のように長辺とじで両面印刷されます。



- “ TUMBLE ”または“ tumble ” 以下のように短辺とじで両面印刷されます。



- “ SIMP ”または“ simp ” 片面印刷します。

用紙サイズと両面印刷

用紙サイズと、両面印刷するときのとじ方を選択します。

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" A3D "または" a3d "	用紙サイズはA3で、長辺とじの両面印刷
" A3T "または" a3t "	用紙サイズはA3で、短辺とじの両面印刷
" A4D "または" a4d "	用紙サイズはA4で、長辺とじの両面印刷
" A4T "または" a4t "	用紙サイズはA4で、短辺とじの両面印刷
" A5D "または" a5d "	用紙サイズはA5で、長辺とじの両面印刷
" A5T "または" a5t "	用紙サイズはA5で、短辺とじの両面印刷
" B4D "または" b4d "	用紙サイズはB4で、長辺とじの両面印刷
" B4T "または" b4t "	用紙サイズはB4で、短辺とじの両面印刷
" B5D "または" b5d "	用紙サイズはB5で、長辺とじの両面印刷
" B5T "または" b5t "	用紙サイズはB5で、短辺とじの両面印刷

両面印刷を指定するときは、次の点に注意してください。

- 1回のlprコマンドで同時に複数のパラメーターを指定すると、正しく印刷されない場合があります。
- パラメーターを指定しないときは、システムデフォルト値が使用されます。
- 印刷データ中に、両面印刷、または片面印刷を選択するデータが含まれていると、印刷データ中の選択が有効になり、-Cオプションによる指定は無効になります。

丁合い

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" COLLATE "または" collate " 電子ソートされます。

丁合いを指定するときは、次の点に注意してください。

- プリント言語によっては、指定が無効になることがあります。

カラーモードと印刷モード

カラーモードと印刷モードを選択します。

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" GC "または" gc "	カラーモードで白黒、印刷モードで画質優先を選択します。
" GB "または" gb "	カラーモードで白黒、印刷モードで速度優先を選択します。
" AC "または" ac "	カラーモードで自動(カラー/白黒)、印刷モードで画質優先を選択します。
" AB "または" ab "	カラーモードで自動(カラー/白黒)、印刷モードで速度優先を選択します。

カラーモードと印刷モードを指定するときは、次の点に注意してください。

- 1回のlprコマンドで同時に複数のパラメーターを指定すると、正しく印刷されない場合があります。
- パラメーターを指定しない場合は、システムデフォルト値が使用されます。
- プリント言語によっては、指定が無効になることがあります。

●●● メモリー呼び出し(HP-GL(オプション)使用時のみ)

あらかじめプリンターに登録しておいたHP-GLエミュレーションモード印刷に関するメモリー設定内容を、指定して呼び出すことができます。

“ PLT%nH ” %nには、HP-GLエミュレーションモードの設定において、登録されたメモリー番号(1~20)を入力します。

6.3.3 ワークステーション設定例(SunOSの場合)

プリンターを登録します。プリンター名は「fxPS」とします。
PostScript®言語に対応したプリンターを登録する場合

```
#
##chosen PS decomposer on printer
##
A4-PS|fxPS|printerPS|Auto select PS:¥
    :lp=:rp=PS:rm=printer:¥
    :sd=/usr/spool/printerPS|pd:¥
    :lf=/usr/adm/printer-errs:
```

A 3 サイズがセットされた用紙トレイから給紙して両面印刷をする、
PostScript®言語に対応したプリンターを登録する場合

```
#
##chosen PS decomposer on printer
##
A3-PS|fxPS|printerPS|Auto select PS:¥
    :lp=:rp=PS_A3_DUP:rm=printer:¥
    :sd=/usr/spool/printerPS|pd:¥
    :lf=/usr/adm/printer-errs:
```

注記

論理プリンターのエントリーを複数指定する場合は、必ずそれぞれのプリンターエントリーに対して個別のスプールディレクトリーを指定してください。同一のスプールディレクトリーを複数のプリンターエントリーで使用すると、プリンター指定オプションが正常に動作しないことがあります。

補足

- /etc/printcapの最初のフィールドには、プリンター名を記述します。プリンター名を複数指定する場合は、「|」で区切ります。
- lp : 接続ポートデバイスです。指定する必要はありません。
- rp : リモートホストのプリンター名です。また、出力形態を同時に設定することもできます。プリンター名は、プリント言語/モードと対応しています。また、出力形態を指定するパラメーターは、-Cオプションで使用できるパラメーターと同じです。記述方法は のようにプリンター名と出力パラメーターの間に「_」を入れます。入力文字数は、64文字までです。使用するプリント言語/モード、および出力形態に対応したプリンター名を設定してください。
- rm : リモートプリンターのホスト名です。/etc/hostsに登録したホスト名を入力してください。
- sd : スプールディレクトリーです。作成したディレクトリーの絶対パスで指定してください。パスを指定するには、スプールディレクトリーの作成が必要です。

6.3.4 ワークステーション設定例(Solarisの場合)

プリンターを登録します。プリンター名は「printer」、プリンターのホスト名は「DC」とします。

HP-GL言語に対応したプリンターを登録する場合

```
#lpadmin -p printer -s DC!HPGL
```

6.3.5 ワークステーション設定例(HP-UXの場合)

プリンターを登録します。プリンター名は「printer」とします。

HP-GL言語に対応したプリンターを登録する場合

```
#lpadmin -pprinter -mrmodel -v/dev/null/ -ocmrcmodel -osmrsmodel  
-ormprinter -orpHPGL -ob3
```

A3サイズがセットされた用紙トレイから給紙して両面印刷をする、HP-GL言語に対応したプリンターを登録する場合

```
#lpadmin -pprinter -mrmodel -v/dev/null/ -ocmrcmodel -osmrsmodel  
-ormprinter -orpHPGL_A3_DUP -ob3
```

補足

-orpのあとに、リモートホストのプリンター名を入力します。また、出力形態を同時に設定することもできます。プリンター名は、プリント言語/モードと対応しています。出力形態を指定するパラメーターは、-Cオプションで使用できるパラメーターと同じです。記述方法のように、プリンター名と出力パラメーターの間に「_」を入れます。使用するプリント言語/モード、および出力形態に対応したプリンター名を設定してください。

6.4 印刷操作

UNIXワークステーションから印刷操作をするときの、操作方法について説明します。



詳細については、各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

6.4.1 印刷する(SunOSの場合)

●●● 印刷コマンド(lpr)

印刷指示をするときは、lprコマンドを使います。lprコマンドの使用方法は、次のとおりです。

コマンドフォーマット

`/usr/ucb/lpr [-P「プリンター名」] [-#「コピー部数」] ファイル名`

コマンドオプション

指定できるコマンドオプションは、以下のとおりです。

[-P「プリンター名」]

/etc/printcapに登録したプリンター名を指定します。本オプションが省略された場合は、デフォルトプリンターのlpに印刷されます。

[-#「コピー部数」]

コピー部数を指定します。1回のlprコマンドで、複数のファイルの印刷指示をした場合は、すべてのファイルに対して、このコピー部数が有効になります。このオプションは、ノンプールモードでは使用できません。

[-C「オプション」]

本機から、オプションのESC/P、HP-GL、PostScript®言語で印刷するとき、-Cオプションを使って印刷の出力形態を指定できる機能を用意しています。印刷の出力形態を指定するには、以下のように入力します。

-C, [パラメーター1] [パラメーター2]

「-C」に続いて、「,」(カンマ)を入力し、「,」の記述以降は出力形態を指定するパラメーターを入力します。複数のパラメーターを指定する場合も、「,」で区切ります。最大255文字まで指定できます。

このオプションは、ノンプールモードでは使用できません。

●●● 使用上の注意

- 上記以外のコマンドオプション(例: -mオプション)で、印刷指示をするワークステーション上で処理されないものは、すべて無効になります。
- 1回のlprコマンドで、複数のファイルの印刷指示をする場合、同時に指定できるのは32ファイルまでです。33番め以降のファイルは無視されます。
- オプションのESC/P、HP-GLの場合、印刷されるコピー部数の上限は250部です。ART、DUMPではコピー部数の指定は無効になります。

●●● コマンド使用例

ファイル名「file1」をプリンター名「fxPS」で印刷する場合、次のように入力します。

```
%lpr -PfxPS file1
```

ファイル名「file1」と「file2」を3部、プリンター名「fxPS」で印刷する場合、次のように入力します。

```
%lpr -PfxPS -#3 file1 file2
```

ファイル名「file1」をA4両面でプリンター名「fxPS」で印刷する場合、次のように入力します。

```
%lpr -PfxPS -C,DUP,A4 file1
```

6.4.2 印刷を取り消す(SunOSの場合)

●●● 取り消しコマンド(lprm)

印刷を指示した印刷データを取り消すときは、lprmコマンドを使います。lprmコマンドの使用方法は、次のとおりです。

コマンドフォーマット

```
/usr/ucb/lprm [-P「プリンター名」] ジョブ番号
```

コマンドオプション

指定できるコマンドオプションは、次のとおりです。

[-P「プリンター名」]

/etc/printcapに登録したプリンター名を指定します。本オプションが省略された場合は、デフォルトプリンターのlpが指定されます。

[ジョブ番号]

印刷を取り消したい印刷データのジョブ番号を指定します。ジョブ番号は、ワークステーション上で1~999の間で定められる順序番号です。lpqコマンドを実行して調べることができます。ジョブ番号の代わりに、ユーザー名、または「-」を指定できます。

ノンプールモードでは、この操作は必要ありません。

[ユーザー名]

このオプションは、スーパーユーザーだけに有効です。このオプションが実行されると、ユーザー名で指定されたユーザーが印刷指示をした印刷データは、すべて取り消されます。

ノンプールモードでは、この操作は必要ありません。

[-]

このオプションが指定されると、ユーザーが印刷指示をした印刷データが、すべて取り消されます。また、このオプションをスーパーユーザーが指定した場合、ワークステーションから印刷指示がされたすべての印刷データの取り消しができます。ノンプールモードでは、この操作は必要ありません。

●●● 使用上の注意

- 複数のファイルを一度に印刷するように指示した場合、印刷データを取り消すときは、ファイルごとに取り消すことはできません。
- オプションの指定なしで実行された場合や、指定されたオプションに該当する印刷データがなかった場合、本コマンドは無効になります。
- 取り消せる印刷データは、印刷指示をしたワークステーションからの印刷データに限られます。ほかのワークステーションから印刷を指示された印刷データは、取り消せません。
- 印刷データを削除するコマンドを受信した時点で、印刷処理中であっても、削除対象のファイルは削除されますが、削除されるまでの内容は印刷されます。
- 複数のファイルを一度に印刷するように指示した場合は、ファイルごとには削除できません。印刷データを削除すると、一度に全ファイルが削除されます。

●●● コマンド使用例

プリンター名「fxPS」のファイルに関する印刷データ(ジョブ番号: 351)を取り消す場合、次のように入力します。

```
%lprm -PfxPS 351
```

6.4.3 印刷する(HP-UX、Solarisの場合)

●●● 印刷コマンド(lp)

印刷指示をするときは、lpコマンドを使います。lpコマンドの使用方法は、次のとおりです。

コマンドフォーマット

```
lp [-d「プリンター名」] [-n「コピー部数」] ファイル名
```

コマンドオプション

指定できるコマンドオプションは、次のとおりです。

[-d「プリンター名」]

lpadminコマンドによって、設定/登録されているプリンター名が、-dオプションとして指定されます。本オプションが省略された場合は、デフォルトプリンターのlpに印刷されます。

[-n「コピー部数」]

コピー部数を指定します。1回のlpコマンドで、複数のファイルの印刷指示をした場合は、すべてのファイルに対して、このコピー部数が有効になります。このオプションは、ノンспールモードでは使用できません。

●●● 使用上の注意

- 上記以外のコマンドオプション(例: -mオプション)で、印刷指示をするワークステーション上で処理されないものは、すべて無効になります。
- 1回のlprコマンドで、複数のファイルの印刷指示をする場合、同時に指定できるのは32ファイルまでです。33番め以降のファイルは無視されます。
- オプションのESC/P、HP-GLの場合、印刷されるコピー部数の上限は250部です。ART、DUMPではコピー部数の指定は無効になります。

●●● コマンド使用例

ファイル名「file1」をプリンター名「fxPS」で印刷する場合、次のように入力します。

```
%lp -dfxPS file1
```

ファイル名「file1」と「file2」を3部、プリンター名「fxPS」で印刷する場合、次のように入力します。

```
%lp -dfxPS -n3 file1 file2
```

6.4.4 印刷を取り消す(HP-UX、Solarisの場合)

●●● 取り消しコマンド(cancel)

印刷を指示した印刷データを取り消すときは、cancelコマンドを使います。cancelコマンドの使用方法は、次のとおりです。

コマンドフォーマット

cancel [プリンター名] [ジョブ番号]

コマンドオプション

指定できるコマンドオプションは次のとおりです。

[プリンター名]

lpadminコマンドによって、設定/登録されているプリンター名を指定します。本オプションが省略された場合は、デフォルトプリンターのlpが指定されます。オプションとして-a、-e、-u、と組み合わせることによって、cancelコマンドを有効に活用できます。

このオプションは、ノンスプールモードでは使用できません。

- [-a] 指定されたプリンター上に受信済みの印刷データで、本コマンドを要求したユーザーが印刷指示をした印刷データをすべて削除します。ただし、プリンター名の指定が必要です。
- [-e] 指定されたプリンター上に受信された印刷データをすべて削除します。ただし、プリンター名の指定が必要です。
- [-u「ユーザー名」] 指定されたプリンター上に受信済みの印刷データで、引数として指定されたユーザーからの印刷データを削除します。ただし、プリンター名の指定が必要です。

[ジョブ番号]

印刷を取り消したい印刷データのジョブ番号を指定します。ジョブ番号は、ワークステーション上で1~999の間で定められる順序番号です。lpqコマンドを実行して調べることができます。

ジョブ番号の代わりに、ユーザー名、または「-」を指定できます。

ノンスプールモードでは、この操作は必要ありません。

●●● 使用上の注意

- オプションの指定なしで実行された場合や、指定されたオプションに該当する印刷データがなかった場合、本コマンドは無効になります。
- 取り消せる印刷データは、印刷指示したワークステーションからの印刷データに限られます。ほかのワークステーションから印刷指示された印刷データは取り消せません。
- 印刷データを削除するコマンドを受信した時点で、印刷処理中であっても、削除対象のファイルは削除されますが、削除されるまでの内容は印刷されます。
- 複数ファイルを一度に印刷指示した印刷データの場合、ファイルごとに削除できません。印刷データを削除すると、一度に全ファイルが削除されます。

●●● コマンド使用例

プリンター名「fxPS」のファイルに関する印刷データ(ジョブ番号: 351)を取り消す場合、次のように入力します。

```
%cancel fxPS-351
```


6.5

lprコマンドの-Cオプションについて

オプションのESC/P、HP-GL、PostScript®言語で印刷する場合、lprコマンドの-Cオプションを使って出力形態を指定できます。

ここでは、-Cオプションで指定できる機能と印刷操作について説明します。

6.5.1 パラメーターについて

-Cオプションで、次のパラメーターが指定できます。

注記

以下に記載されていないパラメーターを指定した場合、そのパラメーターは無視されます。

給紙トレイ選択

給紙トレイの選択には、用紙サイズを指定する場合と、用紙トレイを指定する場合があります。用紙サイズを指定した場合は、指定した用紙がセットされた用紙トレイを自動的に検索します。

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" INTRAY1 "または" intray1 "	トレイ1を選択します。
" INTRAY2 "または" intray2 "	トレイ2(オプション)を選択します。
" INTRAY3 "または" intray3 "	トレイ3(オプション)または大容量トレイ(オプション)を選択します。
" INTRAY4 "または" intray4 "	トレイ4(オプション)または大容量トレイ(オプション)を選択します。
" INTRAY5 "または" intray5 "	トレイ5(手差し)を選択します。
" INMF "または" inmf "	トレイ5(手差し)を選択します。
" A3 "または" a3 "	A3用紙がセットされたトレイを選択します。
" B4 "または" b4 "	B4用紙がセットされたトレイを選択します。
" A4 "または" a4 "	A4用紙がセットされたトレイを選択します。
" B5 "または" b5 "	B5用紙がセットされたトレイを選択します。
" A5 "または" a5 "	A5用紙がセットされたトレイを選択します。
" LETTER "または" letter "	レターサイズ(8.5×11インチ)を選択します。
" LEGAL "または" legal "	リーガルサイズ(8.5×14インチ)を選択します。

給紙トレイを指定するときは、次の点に注意してください。

- 1回のlprコマンドで同時に複数のパラメーターを指定すると、正しく印刷されない場合があります。
- 用紙トレイ番号を指定しない場合、指定した用紙トレイが装着されていない場合、あるいは指定した用紙サイズがセットされていない場合は、システム初期値が使用されます。
- 本オプションは、用紙だけを指定するオプションです。用紙は選択されますが、原稿サイズは用紙に合わせて修正されません。
- 印刷データ中に、給紙トレイを選択するデータが含まれている場合、印刷データ中の用紙トレイ選択が有効になり、-Cオプションによる指定は無効になります。
- 組み合わせできない指定をすると、プリンターが正しく動作しない場合があります。
- プリント言語によっては、指定が無効になることがあります。

●●● 用紙種類選択

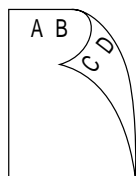
指定できるパラメーターは、次のとおりです。

- “PTS”または“pts” 普通紙を選択します。
- “PT1”または“pt1” 厚紙1を選択します。
- “PT2”または“pt2” 厚紙2を選択します。
- “POH”または“poh” OHPフィルムを選択します。

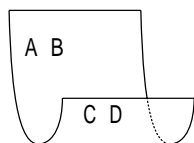
●●● 両面印刷

指定可能なパラメーターは、次のとおりです。

- “DUP”または“dup” 以下のように長辺とじで両面印刷されます。



- “TUMBLE”または“tumble” 以下のように短辺とじで両面印刷されます。



- “SIMP”または“simp” 片面印刷します。

●●● 用紙サイズと両面印刷

用紙サイズと、両面印刷するときのとじ方を選択します。

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" A3D "または" a3d "	用紙サイズはA3で、長辺とじの両面印刷
" A3T "または" a3t "	用紙サイズはA3で、短辺とじの両面印刷
" A4D "または" a4d "	用紙サイズはA4で、長辺とじの両面印刷
" A4T "または" a4t "	用紙サイズはA4で、短辺とじの両面印刷
" A5D "または" a5d "	用紙サイズはA5で、長辺とじの両面印刷
" A5T "または" a5t "	用紙サイズはA5で、短辺とじの両面印刷
" B4D "または" b4d "	用紙サイズはB4で、長辺とじの両面印刷
" B4T "または" b4t "	用紙サイズはB4で、短辺とじの両面印刷
" B5D "または" b5d "	用紙サイズはB5で、長辺とじの両面印刷
" B5T "または" b5t "	用紙サイズはB5で、短辺とじの両面印刷

両面印刷を指定するときは、次の点に注意してください。

- 1回のlprコマンドで同時に複数のパラメーターを指定すると、正しく印刷されない場合があります。
- パラメーターを指定しない場合は、システムデフォルト値が使用されます。
- 印刷データ中に、両面印刷、または片面印刷を選択するデータが含まれている場合、印刷データ中の選択が有効になり、-Cオプションによる指定は無効になります。

●●● 丁合い

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" COLLATE "または" collate " 電子ソートされます。

丁合いを指定するときは、次の点に注意してください。

- プリント言語によっては、指定が無効になることがあります。

●●● カラーモードと印刷モード

カラーモードと印刷モードを選択します。

指定できるパラメーターは、次のとおりです。

" GC "または" gc "	カラーモードで白黒、印刷モードで画質優先を選択します。
" GB "または" gb "	カラーモードで白黒、印刷モードで速度優先を選択します。
" AC "または" ac "	カラーモードで自動(カラー/白黒)、印刷モードで画質優先を選択します。
" AB "または" ab "	カラーモードで自動(カラー/白黒)、印刷モードで速度優先を選択します。

カラーモードと印刷モードを指定するときは、次の点に注意してください。

- 1回のlprコマンドで同時に複数のパラメーターを指定すると、正しく印刷されない場合があります。
- パラメーターを指定しない場合は、システムデフォルト値が使用されます。
- プリント言語によっては、指定が無効になることがあります。

6.6 プリンターステータスの確認

ワークステーションからプリンターステータスを問い合わせるときの操作方法について説明します。

6.6.1 プリンターステータスを確認する(SunOSの場合)

参照

詳細については、各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

注記

ノンプールモードの場合、この機能は使用できません。

●●● プリンターステータス確認コマンド(lpq)

プリンターの状態を問い合わせるときは、lpqコマンドを使います。プールモードの場合、複数のクライアントから同時に、印刷データの情報通知要求を受け付けることができます。また、印刷要求、受信済み印刷データの削除要求を含めて、5つの要求まで同時に受け付けることができます。ノンプールモードの場合、印刷データの情報通知要求を受信した順番で、印刷データ情報の通知要求を受け付けます。lpqコマンドの使用方法は次のとおりです。

コマンドフォーマット

```
/usr/ucb/lpq [-P「プリンター名」] [-l] [ユーザー名]
```

コマンドオプション

指定可能なコマンドオプションは次のとおりです。

[-P「プリンター名」]

/etc/printcapに登録したプリンター名を指定します。本オプションが省略された場合は、デフォルトプリンターのlpが指定されます。

[-l]

印刷指示をしたワークステーションの情報を、ロングフォーマットで表示します。

[ユーザー名]

ユーザー名で指定されたユーザーに限定した、受信済み印刷データの情報を表示します。

上記以外のコマンドオプションについては、印刷指示をするワークステーション上で処理される+intervalのオプションが有効です。

●●● 使用上の注意

- 長いファイル名は途中までが表示され、すべては表示されません。
- 表示される印刷指示情報は、印刷指示順に最大64です。
- 同一のワークステーション上から、1台のプリンターに対して2種類以上のプリント言語/モードを設定した場合は、問い合わせ(Lpq)によって、ワークステーション上に同一のジョブ番号が表示される場合があります。

●●● コマンド使用例

プリンター名「fxPS」の受信済み印刷データを問い合わせる場合、次のように入力します。

```
%lpq -PfxPS
```

プリンター名「fxPS」をロングフォーマットで表示する場合、次のように入力します。

```
%lpq -PfxPS -l
```

6.6.2 プリンターステータスを確認する(HP-UX、Solarisの場合)

参照

詳細については、各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

注記

ノンプールモードの場合、この機能は使用できません。

●●● プリンターステータス確認コマンド(lpstat)

プリンターの状態を問い合わせるときは、lpstatコマンドを使います。プールモードの場合、複数のクライアントから同時に、印刷データの情報通知要求を受け付けることができます。また、印刷要求、受信済み印刷データ削除要求を含めて、5つの要求まで同時に受け付けることができます。ノンプールモードの場合、印刷データの情報通知要求を受信した順番で、印刷データ情報の通知要求を受け付けます。lpstatコマンドの使用方法は、次のとおりです。

コマンドフォーマット

```
lpstat [ コマンドオプション ]
```

コマンドオプション

指定できるコマンドオプションは、次のとおりです。

[-o「印刷したいリスト名」]

受信印刷データの情報を表示します。引数(印刷したいリスト名)には、プリンター名を指定できます。

[-t]

すべての情報を表示します。

[-u「印刷したいリスト名」]

引数(印刷したいリスト名)のログイン名で指定されたユーザーに限定した、受信印刷データの情報を表示します。

[-v「印刷したいリスト名」]

プリンター名と接続デバイスのパス名を表示します。引数(印刷したいリスト名)は、プリンター名を指定します。

●●● 使用上の注意

- 長いファイル名は途中までが表示され、すべては表示されません。
- 表示される印刷指示情報は、印刷指示順に最大64です。
- 同一のワークステーション上から、1台のプリンターに対して2種類以上のプリント言語/モードを設定した場合は、問い合わせ(lpstat)によって、ワークステーション上に同一のジョブ番号が表示される場合があります。

●●● コマンド使用例

プリンター名「fxPS」の受信済み印刷データを問い合わせる場合、次のように入力します。

```
%lpstat -ofxPS
```

インターネット印刷の 設定

7 章

7.1	インターネット印刷を利用する	116
7.1.1	システム構成について	116
7.1.2	設定の流れ	117
7.2	プリンター側の設定	118
7.2.1	IPアドレス、サブネットマスク、 ゲートウェイアドレスの設定	118
7.2.2	ポートを起動する	118
7.2.3	その他の設定項目について	120
7.3	印刷先の設定とプリンタードライバーのインストール	121

7.1 インターネット印刷を利用する

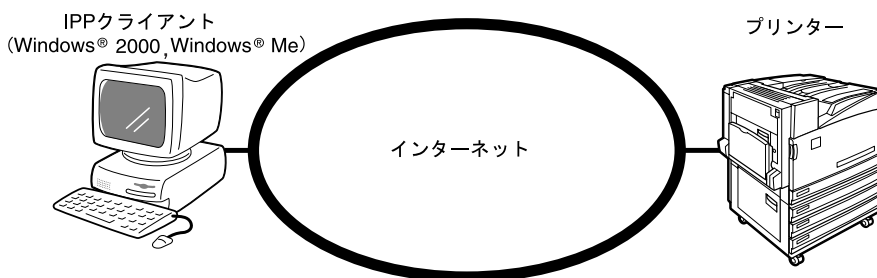
IPPを使って、Windows® 2000、またはWindows® Meからインターネット印刷を利用する場合の設定手順を説明します。

7.1.1 システム構成について

本機は、IPP(Internet Printing Protocol)をサポートしています。Windows® 2000、Windows® Meは、IPPプリンターに印刷するためのクライアントソフト(IPPポートモジュール)を装備しているため、[プリンターの追加]ウィザードから、IPP対応プリンターを指定できます。IPPを利用すれば、インターネット、またはイントラネットを経由して遠隔地のプリンターに印刷できます。

注記

Windows® Meの場合、インターネット印刷を利用するには、IPPポートをインストールする必要があります。IPPポートのインストール方法については、Windows® Meに付属の説明書を参照してください。



- トランスポートプロトコル
TCP/IP
- 対象OS
Microsoft® Windows® 2000 Server 日本語版(ServicePack 1を含む)
Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版(ServicePack 1を含む)
Microsoft® Windows® Me 日本語版

7.1.2 設定の流れ

操作手順

- ① プリンターの操作パネル、または「CentreWare Internet Services」を使って、IPアドレスを設定して、IPP用のポートを【キドウ】(工場出荷時:停止)にします。

参照

設定方法については、「7.2 プリンター側の設定」(P.118)を参照してください。

- ② クライアント側で、印刷先の設定とプリンタードライバをインストールします。

参照

設定方法については、「7.3 印刷先の設定とプリンタードライバのインストール」(P.121)を参照してください。

7.2 プリンター側の設定

IPPを使う場合は、操作パネルで以下の項目を設定する必要があります。

- IPアドレス、および必要に応じて、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定する
- IPP用のポートを【キドウ】(工場出荷時:停止)にする

参照

設定は、「CentreWare Internet Services」でもできます。詳しくは、『DocuPrint C2220 取扱説明書』の「5.1 クライアントからプリンターの設定をする (CentreWare Internet Services)」を参照してください。

7.2.1 IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定

ネットワーク環境によっては、IPアドレスに加えて、サブネットマスクやゲートウェイアドレスの設定が必要な場合があります。ネットワーク管理者にご相談のうえ、必要な項目を設定してください。

アドレスの指定方法には、DHCPサーバーから自動的に取得する方法と手動で指定する方法があります。設置環境に合わせて指定してください。

参照

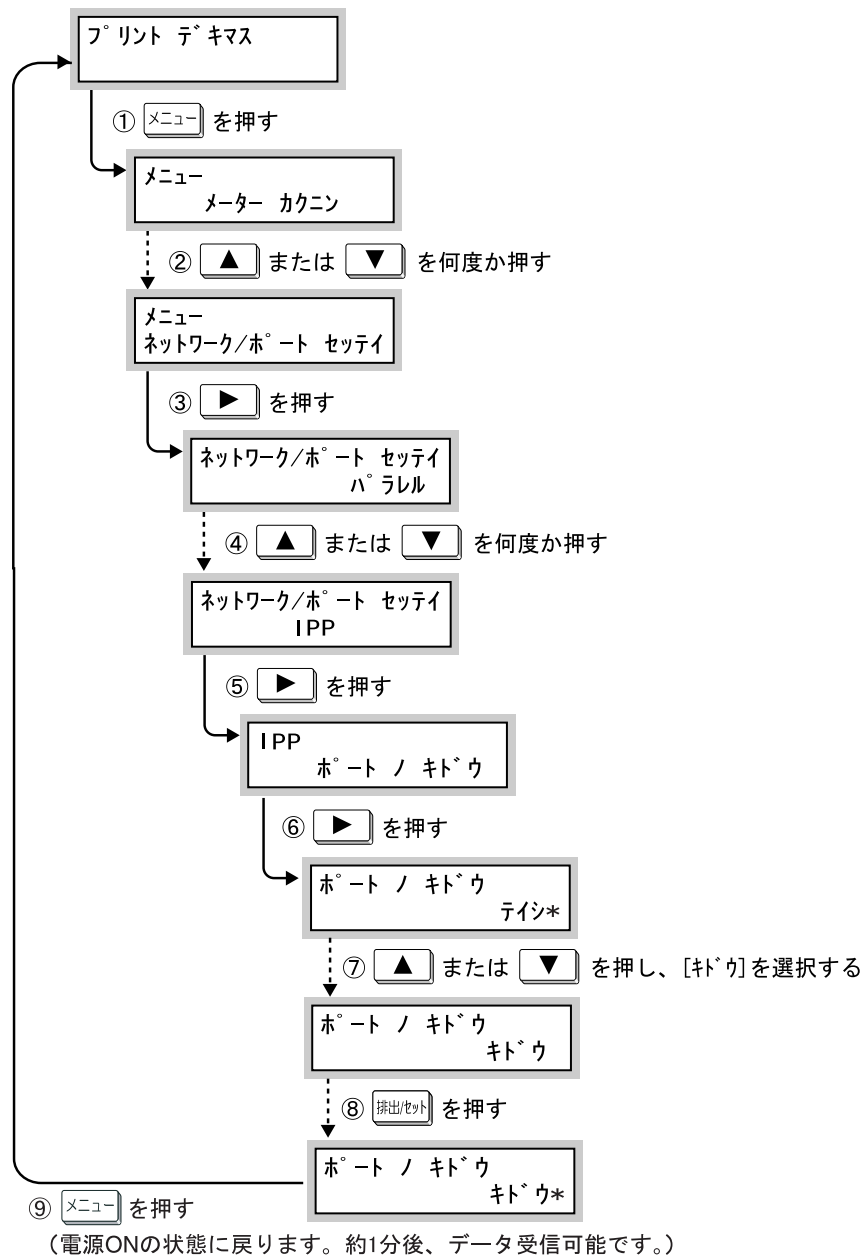
IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの設定については、「1.4 IPアドレスを設定する」(P.9)を参照してください。

7.2.2 ポートを起動する

以下の手順に従って、IPP用のポートを起動します。

注記

IPP用のポートを【キドウ】にしたときに、メモリーが不足すると、IPP用のポートが自動的に【テイシ】に設定されることがあります。この場合は、使っていないポートを【テイシ】にするか、メモリー割り当て容量を変更してください。メモリー割り当てについては、『DocuPrint C2220 取扱説明書』の「第8章 共通メニューの設定」を参照してください。



7.2.3 その他の設定項目について

必要に応じて、以下の項目も設定してください。ただし、これらの項目は、通常の使用では、工場出荷時の設定を変更する必要はありません。

- IPPのプリントモード指定 (工場出荷時:【ジドウ】)
- IPPのJCL (工場出荷時:【ユウコウ】)
- IPPのTBCPフィルター (工場出荷時:【ムコウ】)
- IPPのアクセス権制御 (工場出荷時:【ムコウ】)
- IPPのDNS使用 (工場出荷時:【ユウコウ】)
- IPPの追加ポート番号 (工場出荷時:【80】)
- IPPのタイムアウト (工場出荷時:【60ビョウ】)
- IPPの受信バッファ容量 (工場出荷時:【スプールシナイ/256K】)

参照

設定項目の詳細は、『DocuPrint C2220 取扱説明書』の「第8章 共通メニューの設定」を参照してください。また、「CentreWare Internet Services」を使うと、さらに詳細な設定ができます。詳細については、『DocuPrint C2220 取扱説明書』の「5.1 クライアントからプリンターの設定をする(CentreWare Internet Services)」を参照してください。

補足

IPPの受信バッファ容量の設定は変更できます。『DocuPrint C2220 取扱説明書』の「8.2 共通メニューの設定を変更する」を参照してください。

7.3 印刷先の設定とプリンタードライバのインストール

クライアント側で、印刷先の設定とプリンタードライバのインストールをする手順について説明します。

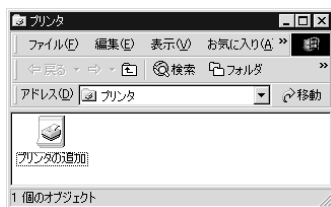
補足

- プリンタードライバをインストールする前に、クライアントに「インターネットプロトコル(TCP/IP)」がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、Windows® 2000、Windows® Meに付属のマニュアルを参照してインストールしてください。
- インターネット印刷をプロキシサーバーを経由して利用する場合に、印刷先の設定をする時、「プリンタに接続できません」というエラーメッセージが表示されることがあります。その時は、[スタート]メニューの[設定]から、[コントロールパネル]をクリックし、[インターネットオプション]で、本機のIPアドレスをプロキシサーバーを経由しない設定にする必要があります。設定方法については、Windows® 2000、Windows® Meに付属のマニュアルを参照してください。

Windows® 2000の場合

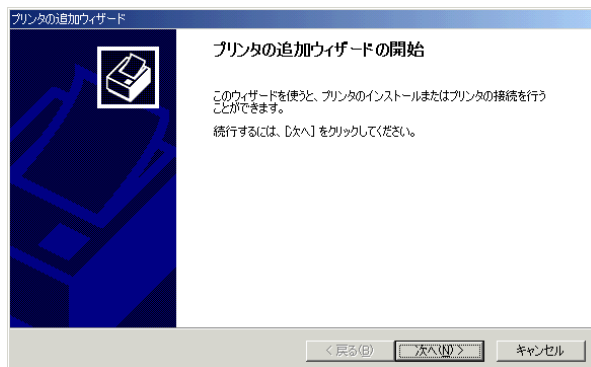
操作手順

- ① [スタート]メニューの[設定]から、[プリンタ]をクリックします。
[プリンタ]ウィンドウが表示されます。
- ② [プリンタの追加]を開きます。



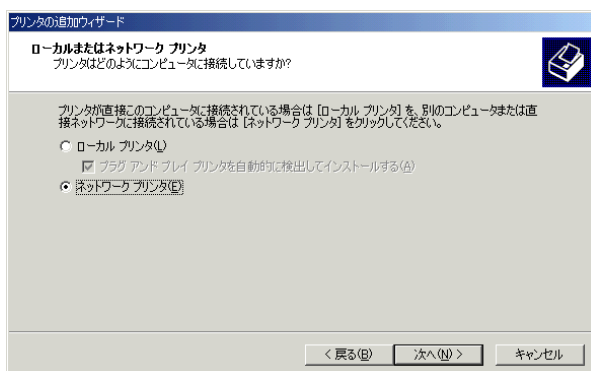
「プリンタの追加」ウィザードが起動します。

- ③ [次へ]をクリックします。



プリンターの接続方法を選択する画面が表示されます。

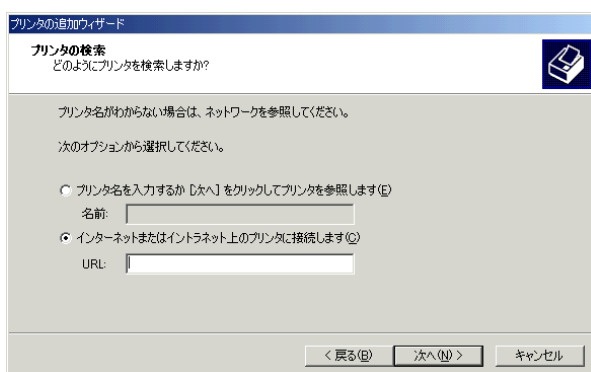
- ④ [ネットワークプリンタ]を選択して、[次へ]をクリックします。



プリンターの検索方法を指定する画面が表示されます。

- ⑤ [インターネットまたはイントラネット上のプリンタに接続します]を選択し、[URL]に以下のURLを入力して、[次へ]をクリックします。

http://[本機のIPアドレス]/ipp

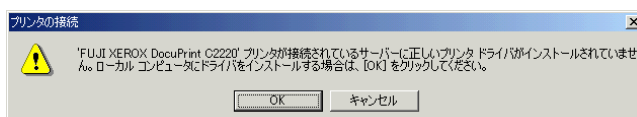


プリンタの接続ダイアログボックスが表示されます。

補足

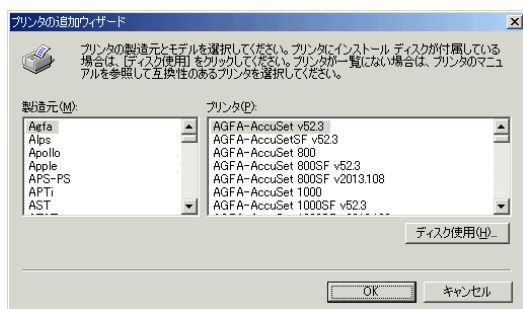
クライアント上でDNS設定がされていて、ホスト名指定が有効であれば、ホスト名を入力することもできます。

- ⑥ [OK]をクリックします。

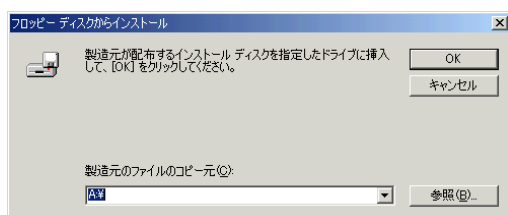


プリンターの製造元をモデルを選択する画面が表示されます。

- 7 「CentreWareドライバー&ネットワークユーティリティ」のCD-ROMを、CD-ROMドライブにセットします。
- 8 [ディスク使用]をクリックします。



- 9 表示されたダイアログボックスで「x: ¥Plw¥Win2000」と入力し、[OK]をクリックします。

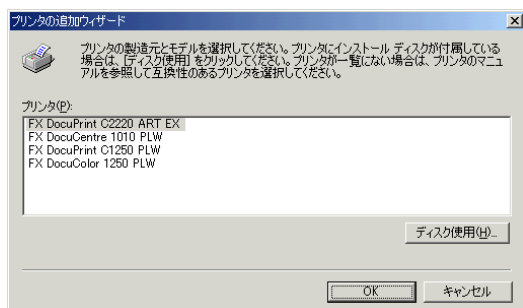


プリンターを選択する画面が表示されます。

補足

- ここでは、CD-ROMのドライブ名を「x:」として説明しています。CD-ROMをセットしたドライブ名を指定してください。
- [参照...]をクリックして、「Plw¥Win2000」フォルダーを指定することもできます。

- 10 [FX DocuPrint C2220 ART EX]を選択して、[OK]をクリックします。

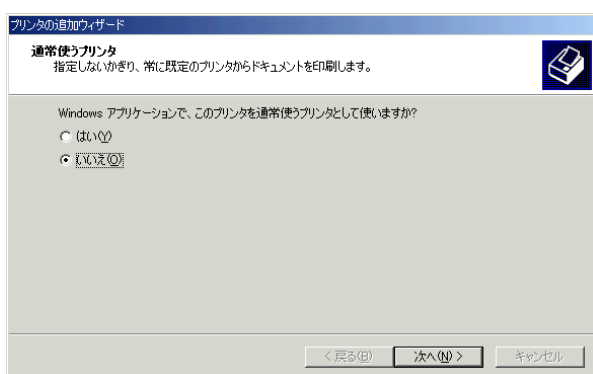


通常使うプリンターを指定する画面が表示されます。

補足

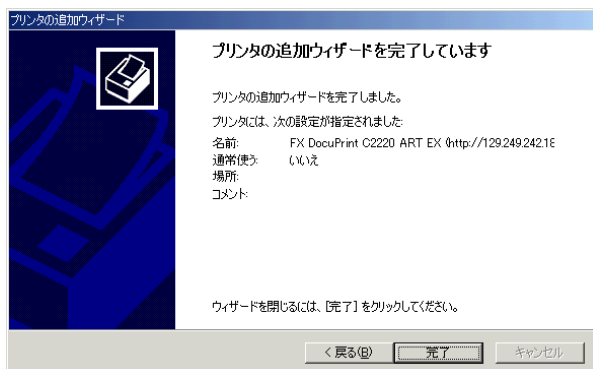
「デジタル署名が見つかりませんでした」というダイアログボックスが表示されますが、[はい]をクリックして、インストールを続けてください。

- ⑪ 本機を通常使用する場合は[はい]を、使用しない場合は[いいえ]を選択して、[次へ]をクリックします。



必要なファイルのコピーが開始します。
コピーが終了すると、インストール完了の画面が表示されます。

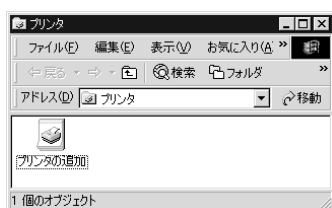
- ⑫ [完了]をクリックして終了します。



Windows® Meの場合

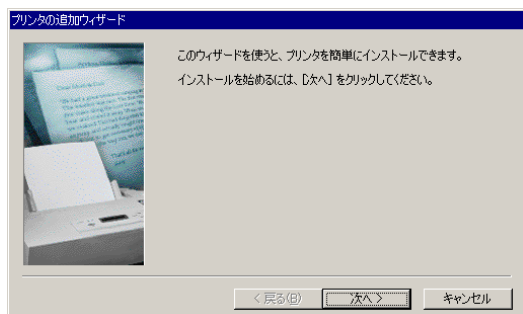
操作手順

- ① [スタート] [設定] [プリンタ]の順に選択します。
[プリンタ]ウィンドウが表示されます。
- ② [プリンタの追加]を開きます。



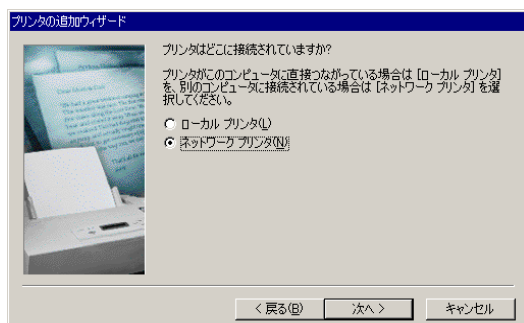
「プリンタの追加」ウィザードが起動します。

- ③ [次へ]をクリックします。



プリンターの接続方法を選択する画面が表示されます。

- ④ [ネットワークプリンタ]を選択して、[次へ]をクリックします。

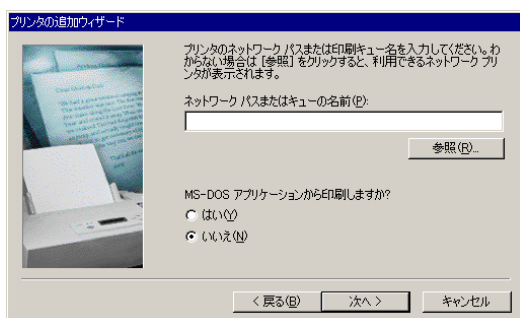


プリンターの検索方法を指定する画面が表示されます。

7.3 印刷先の設定とプリンタードライバーのインストール

- 5 プリンターの[ネットワークパスまたはキューの名前]に以下のURLを入力して、[次へ]をクリックします。

http://[本機のIPアドレス]/ipp

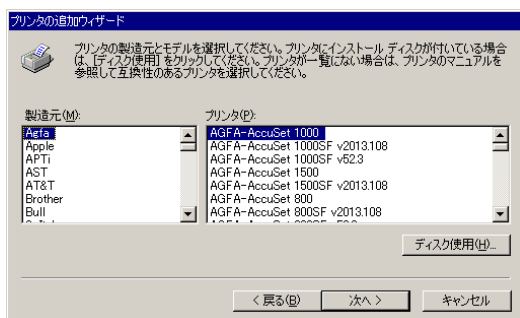


プリンターの接続ダイアログボックスが表示されます。

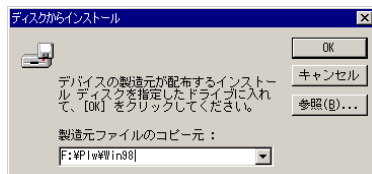
補足

クライアント上でDNS設定がされていて、ホスト名指定が有効であれば、ホスト名を入力することもできます。

- 6 「CentreWareドライバー&ネットワークユーティリティ」のCD-ROMを、CD-ROMドライブにセットします。
- 7 [ディスク使用]をクリックします。



- ⑧ 表示されたダイアログボックスで「x: ¥Plw¥Win98」と入力し、[OK]をクリックします。

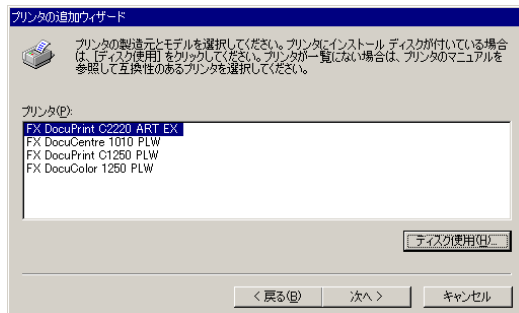


プリンターを選択する画面が表示されます。

補足

- ここでは、CD-ROMのドライブ名を「x:」として説明しています。CD-ROMをセットしたドライブ名を指定してください。
- [参照...]をクリックして、CD-ROM内の「Plw¥Win98」を指定することもできます。

- ⑨ [FX DocuPrint C2220 ART EX]を選択して、[次へ]をクリックします。

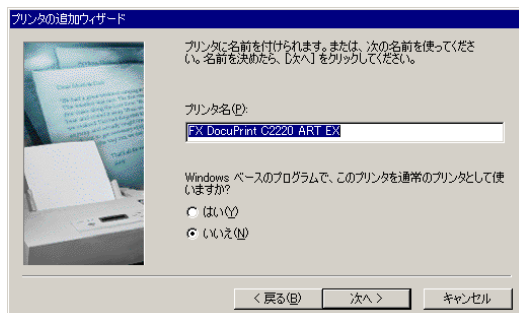


通常使うプリンタを指定する画面が表示されます。

補足

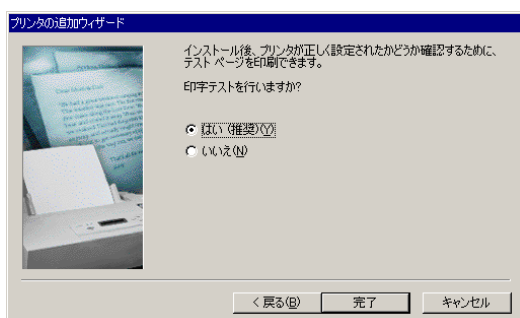
「デジタル署名が見つかりませんでした」というダイアログボックスが表示されますが、[はい]をクリックして、インストールを続けてください。

- ⑩ プリンターの名前を入力します。



7.3 印刷先の設定とプリンタドライバのインストール

- ⑪ 本機を通常使用する場合は[はい]を、使用しない場合は[いいえ]を選択して、[次へ]をクリックします。
- ⑫ インストール後に、テストページを印刷する場合は[はい]を、印刷しない場合は[いいえ]を選択して、[完了]をクリックして終了します。



必要なファイルのコピーが開始します。
コピーが終了すると、インストール完了の画面が表示されます。